

## 自称「日本一働かない稲作農家」が行う乾田直播栽培の推進 株式会社辻村農場(妹背牛町)



<辻村代表>

### 【組織等の概要】

- 代表取締役：辻村 靖
- 経営面積26ha：水稲22ha(品種：えみまる)、黒大豆4ha
- 2015年以降「すべての水稲を乾田直播」「労働力1名」で栽培
- すべての作業の機械化で、力仕事をなくし、GPSガイダンスや自動操舵システムの導入で水稲栽培を誰でもできる楽しい仕事に！
- YouTube(チャンネル名「乾田直播やろうぜ!」)で、作業の実際を公開

### ◇【取組の経緯と概要】

- ◆ 1985年に北海道農業試験場(現北海道農業研究センター)に入省し、4年間勤務した後、実家の農業を継承。
- ◆ 当初は親の農作業工程を遵守していたが、2011年に、空知農業改良普及センターの普及指導員から省力的な「乾田直播※」という技術を聞き、先進地の岩見沢市を視察。
- ◆ 2012年に0.5haの乾田直播の試験栽培に取り組み、普及指導員や先進地の農業者の指導を受けながら作業工程の見直しに取り組む。
- ◆ 2015年に水稲栽培14haをすべて乾田直播とし、2018年に水田12haを購入して26haに規模拡大。
- ◆ 2021年に法人化。

※「乾田直播」とは、育苗・代かきを行わず、畑状態の乾いた水田に直接種籾を播き、稲の生育後に湛水する省力的な栽培方法。

### 【取り組む際に生じた課題と対応方法】

- 乾田直播では、苗立ち、水管理、雑草対策のため、レーザーレベラーによる均平作業が必須だが、多くの作業時間がかかっていた。  
⇒GPSガイダンスと自動操舵システムの導入により、均平が維持され、整地にかかる作業時間が短縮。



<ドリル播種>



<乾田直播の防除後の様子>

### 【取組の成果】

- 2020年の水稲10a当たり作業時間は2.5時間で、北海道平均15.5時間の16%と大幅に省力化。
- 作業の大半を一人で行えるようになり、春の農繁期は雨天を除くと実働2週間程度で終了。
- 2020年に低温苗立ち性や耐病性に優れている品種「えみまる」の単一品種としたことで、10a当たり収量570kgを確保し、収穫・調製作業も効率化。
- 水稲専用農機を使わないことで初期投資はかかるが長期的にはメンテナンス費用も減り、農機具費を削減。

**労働費と農機具費の削減により低コスト化を実現!**

### 【今後の展望】

- 規模拡大を進め、基幹労働力1名で50haまで栽培が可能な作業体系を確立する。
- 乾田直播を継続し、価格が不安定な米に代えて大豆・麦・子実コーンの作付面積を増やす。

### 【辻村農場の乾田直播栽培と慣行栽培(北海道)の作業工程比較】

#### 3～6月上旬

【乾田直播】4月中旬～



【慣行栽培】3月下旬～

